

■今年の国語は！？

新学習指導要領の影響あり！

■出題形式

今年度（'20年度）は物語文、論説文、随筆文の大問3問という形式に変化はなかった。（年度によっては、物語文、論説文、論説文の形式もあるが、この形式は過年度の3分の1程度）。また、小問数は3問減であったが、実質の解答数は1問減であるので誤差の範囲といえる。

設問形式の割合（漢字や熟語などのことばに関する問題、読解に関する選択問題・記述問題など）は、ことばに関する問題が少なくなったと昨年度（'19年度）指摘したが、今年度も昨年度程度の数でありこの傾向は続く可能性が高いのではないかと。

各大問にほぼ1問ある長めの記述問題は、登場人物の心情・筆者の考え・筆者の感じていること、というように読み取った内容を説明することにとどまらず、そこから一歩踏み込んだ思考を求めるものばかりであった。また、大問③の、川端康成の作品の冒頭部分を選ばせる問題は新傾向といえる。（川端の作品は『伊豆の踊子』その他の選択肢は、夏目漱石『坊っちゃん』・宮澤賢治『なめとこ山の熊』・芥川龍之介『蜘蛛の糸』・太宰治『走れメロス』）この2つの変化は、大問の内容とともに新学習指導要領（小学校だけでなく中学校も含む）にも関連しており今後も注目される点だと言えよう。

難易度については、昨年度より合格者平均点は上昇したが100点（満点の2/3）までは適正といえるレベルであろう。

■出題内容

① 物語文：『なみきビブリオバトル・ストーリー 本と4人の深呼吸』「とどけ、わたしの声—藤谷アキの場合」
松本 聡美 約4600字 さ・え・ら書房

② 論説文：『文明の災禍』 内山 節 約2600字 新潮社

③ 随筆文：『小説家の仕事は半分だけ』 藤沢 数希 約2400字 文藝春秋

①は、前述の出題形式の最後でもふれたが、ビブリオバトルは最近学校の現場でも取り入れられているもので、従来の学習指導要領にも関連するものではあるが、今年度から新学習指導要領が全面実施されるので、より意識して問題に取り入れられたのではないかと。実際にビブリオバトルを小学校の授業で受けたことのある受験生は、読み取りやすかったと思われる。（6）の熟語を考える問題は、難しくない反面、時間の使い方に注意する必要がある。（7）は「体が軽くなったような気がした」という典型的な心情を問う問題であったので、完璧とはいかないまでもある程度は書けたはずである。その他の問題も標準的なレベルで特に難しいものはない。

②は、自然が私たち人間にもたらす大量の情報によって判断力を失わないためには、知性で処理をしようとせず、身体で受け取って判断することが大切であるという内容。

③は、小説とは、小説家が提供する文章と読者の心の中にある様々な記憶とが、複雑な相互作用を引き起こすという共同作業により完成するものである。だから、小説家としての仕事は半分であり、小説を書くということはとても楽しく素敵な体験であるという内容。四字熟語、慣用表現、外来語など本校らしい問題が多かった。

■合格に向けての対策

昨年度、難化にブレーキがかかり'18年度より10点近く合格者平均点が上昇しましたが、今年度はさらに約5点（3教科型で6.4点、4教科型で4.7点）上がりました。'15年度のように100点を大きく上回るようであれば難化に舵を切る可能性が高くなりますが、90点台であれば問題にされないと考えられます。ただ、出題形式や出題内容でもふれた新学習指導要領を意識した問題は、まだ出題が安定したものになるには時間がかかると思われるので、難易度にブレが出るかもしれません。

漢字や記号選択問題は難しくはないので、記述で差がつくと思われます。人物、場面、心情など読み取ったことの関係性をしっかり内容に入れることができる力をつけてください。そのためには、単純にまちがいを直すだけの復習ではなく、内容の理解と結びつけた深い読みと思考ができていくかの検討が必要です。

ことばに関する問題は、外来語が3年連続で出題されました。難解な言葉はほとんど出題されませんが、一定以上のレベルの言葉や用字を間違えやすい言葉は、徹底的に練習しなければなりません。

また、今年度新学習指導要領が全面実施されることで、新たに小学校で習うことになった漢字（都道府県名を漢字で指導できるようにするために）の内「熊」「井」「香」「縄」「沖」など、都道府県名以外の言葉にも使えそうな漢字は注意する必要があります。

	2018年度	2019年度	2020年度
制限時間	60分	60分	60分
大問数	3問	3問	3問
小問数	31問	30問	27問
配点	150点	150点	150点
合格者最高点	117点	122点	126点
受験者平均点	非公表	非公表	非公表
合格者平均点	4科85.3点 3科80.6点	4科93.5点 3科90.4点	4科98.2点 3科96.8点

※ 3科4科の区別なしに400点満点で判定。4科の理科は判定時に50点に換算。

■今年の算数は！？

高得点勝負！ミスを最小限に抑えられた者が勝つ！

■出題形式

昨年度（'19年度）と形式上大きな変化はない。**1**は計算問題、**2**、**3**は独立小問、その後は小問付きの大問が続いている。'06年度に1日入試になってからは、'08年度と今年度（'20年度）を除いて、合計30問（1問5点）という構成にこだわっているふしがある。今年度の合格者の平均点は3教科型が119.2点、4教科型が110.1点である。

昨年度より作業量と難易度の低下が平均点の上昇につながったか

	2018年度	2019年度	2020年度
制限時間	70分	70分	70分
大問数	6問	7問	6問
小問数	30問	30問	25問
配点	150点	150点	150点
最高点	145点	145点	150点
受験者平均点	非公表	非公表	非公表
合格者平均点	3科94.9点 4科85.3点	3科100.7点 4科90.3点	3科119.2点 4科110.1点

※ 3科4科の区別なしに400点満点で判定。4科の理科は判定時に50点に換算。

■出題内容

- 1** 四則演算
- 2** (1)差集算 (2)ニュートン算(3)立体図形(くり抜くタイプ)(4)円とおうぎ形(5)比と平面図形
- 3** 流水算
- 4** 整数の性質(約数のしくみ)
- 5** 整数の性質と規則性
- 6** 立体の切断(四角錐と立方体を組み合わせた立体を切断)

1は例年通りの計算の問題で、**2**のいわゆる「キセル算」は当校では頻出、**5**は分母が7の分数の循環節になっている興味深い問題。**2**(1)洛南では近年よく見かける「面積図」をかきこくに気づけば解ける問題。**2**特にこれといった特徴のないニュートン算。確実に正解したい。**3**ここの受験生なら逆に警戒するほど簡単な、くり抜きタイプの問題。出題はされなかったが表面積も求められるようにしておこう。**4**三角定規の性質が2種類とも登場する問題。共通部分を巻き込んで考える問題だが、この学校を受験するレベルであれば特記事項ではないはず。**5**マス目の利用や伸ばして相似形を作るなど解き方たくさん考えられる良問。合否を分けた1問か？…。**3**は流水算の問題。ダイヤグラムに整理し、消去算の形に持っていき式処理することで解答は可能。後半の問題は、さらにダイヤグラムを正確にかき、丁寧な処理が必要になってくる。成基学園が誇る昨年度の日進第11回ウルトラで同タイプの問題を出題。有利に働いたと思われる。**4**(1)(2)「約数の表」「行と列の積」などいろいろな性質はあるが、そんなことは考えずにルールに従って作業をするべきの、ミスせず確実に正解したい問題。**3**4隅の対角線状に「6, 36」「12, 18」の組み合わせが入り「円順列×2」で一気に終わらせたいところ。実際は手を動かして答えを出そうとするはずだが、この手の問題は必ず「固定する数、その上で固定される数」を意識することで最後は計算にもっていけることを意識しておくことが大事。**5**(1)(2)繰り返しの規則があるので、セット数を求め余りに注意して解く。確実に正解したい。**3**余りが「3, 4, 5, 6」→「(4, 5, 6, 7の公倍数)−1」で一瞬。**4**余りが「0, 1, 0, 0」「0, 0, 0, 1」のパターンしかない。つまり「84の倍数で1の位が6の数」と「60の倍数で、かつ7で割ると1余る数の120が見つければ、420ずつ加えて次々と見つけていく」という方向で解けばいい。**6**洛南で超頻出の立体切断。まずは全体の体積を求めておく。(1)Fを含む立体の体積は立方体の半分。それを求め全体からひいてAを含む方を出す。(2)正面から見た様子をかき、切断面がBC上のどこを通過するのか考える。それがわかれば、Cを含む方の体積を出し、全体からひく。(3)(2)と考え方は同様。切頭三角柱の考えても、四角錐を半分に分けて考えてもそんなに手順は変わらない。時間との勝負か。(4)「最後の問題は難問」と思い込み敬遠した者も多かったかもしれないが、切断の様子から計算しなければならない立体がつかめれば、高さの比だけで終わる。冷静に判断できるかどうか勝負。

1を全問正解し、**2**(1)~(4)、**3**ア、イ、**4**(1)(2)、**5**(1)~(3)、**6**(1)(2)までをなるべく失点なく正解し、120点前後得点できれば合格圏内であろう。できる問題を確実に正解すること、そして時間をかけずに解く問題を探すことが大事である。

■合格に向けての対策

'06年度に1日入試になってからは、計算と調べ上げ、そして図形重視の傾向に変わり、それが続いています。計算問題は、結合法則、分配法則を利用するなど、工夫して処理した方がよいものが多く、それらにしっかり慣れておくことが必要です。また、来年度（'21年度）は2021年度入試、もしくは令和3年度入試でもあるので「2021」や「3」が答えになる（すでに今年度に2問、年度と同じ数値を含む答えがありました）、もしくは答えに含まれる問題が出題される可能性があります。「キセル算」「桁バラシ」などの計算の工夫も出題が増えているので対策をしておくべきです。文章題は、幅広くいろいろな分野から出題されています。特に速さの問題は「通過算」や「流水算」として出題されること

洛南高等学校附属中学校

もあり、注意が必要です。速さに関する問題は、'14年度にはありませんでしたが、'15年度は2問（**4**旅人算，**6**時計算的な問題），'16年度は**5**，'17年度は**5**，'18年度は**2**(**2**)，(**3**)で昨年度は**3**(**1**)と**4**，今年度は**3**で出題されました。よって、毎年大問で1問は出題されると考えておいた方がよいといえます。

和や差を利用して解く問題（おもに過不足算や消去算）や面積図を利用する文章題の出題頻度が高いのも洛南の特徴です。不定方程式（※）が'07年度，'09年度と出題されていることも注意すべきです。

同様に、「濃度」の問題も頻繁に出題されていること（'02年度から今年度の間に12回）も知っておきたいところです。

図形に関しては、平面、立体ともに幅広い分野からほぼ均等に出題されています。'15年度の**7**のような「敷き詰め」タイプも訓練しておく必要があります。もちろん、「相似・面積比・正六角形を利用した図形」分野も必須です。立体図形は、'05年度から4年連続で三角すいの切断が出題され、「立体の切断」としてはさらに、'10年度，'11年度，'13年度，'18年度，今年度にも出題されています。'13年度は展開図からの切断，'14年度は「重なり」部分の求積，'15年度，'16年度，'18年度は立方体内部にある立体図形の求積だったので、来年度の受験生はいろいろなタイプの切断に対して十分な練習を積んでおくことが大切です。'11年度の**3**や'15年度の**2**(**2**)そして昨年度の**5**のような、水そう問題や'17年度の**8**の回転体も頻出分野なので、しっかり対策を取っておきましょう。

さらに、今年度の**4**や**5**のような「規則性」「場合の数」「整数の性質」がらみの問題は洛南が好んで出題する分野の1つです。なお、テストの後半は、たいてい3問～4問ずつの小問に振り分けられているので、まず1つ目の小問をクリアできるかどうかがとても大事です。小問が1つ解ければ、その考え方を活用して次の小問が解けることも多いので、どれだけ粘り強く問題にくらいつけるかが勝負の分かれ目となるでしょう。ただし、時間とのかけ引きになるときは、後半の小問を2問程度、思い切ってとばしてしまう勇気も必要です。最終的には、時間配分が勝敗の鍵をにぎるので、日進などの実践的な練習の場でそのコツをつかんでください。

※ 中学入試で扱われる不定方程式は、整数解が複数存在する2元または3元の1次方程式で、係数の最小公倍数などに注目しながら処理する問題です。

■今年の理科は！？

平均点だけ見れば、昨年度（'19年度）に続き「高難度を維持！」に見えるが、実際は…。

■出題形式

例年、大問は「生物、生物、化学、地学、物理」の5問であり、今年度（'20年度）もそれを踏襲する形となった（昨年度は「生物、生物、化学、地学、物理、物理」の6問であった）。小問数は、選択 23 問＋非選択問題 20 問の計 43 問で、うち計算問題は 15 問である。

今年度の合格者平均点は右表の通り、昨年度と比べてほぼ横ばいとなった。しかし、問題の難度自体は昨年度よりも下がっているため、恐らく最後の平面でここで条件を読み落とし「全問不正解」あるいは数問のダメージを受けた受験生がいたのではないだろうか。

	2018年度	2019年度	2020年度
制限時間	45分	45分	45分
大問数	5問	5問	5問
小問数	44問	35問	43問
	3科/4科	3科/4科	3科/4科
配点	100/50	100/50	100/50
最高点	98点	89点	81点
受験者平均点	非公表	非公表	非公表
合格者平均点	73.9/72.1	58.8/55.5	62.5/55.0

※ 3科4科の区別なしに400点満点で判定。4科の理科は判定時に50点に換算。

■出題内容

- | | |
|--|--|
| <p>① 生物総合（植物の葉や節足動物、せきつい動物などの体のつくり）</p> <p>③ 空気の体積と圧力、ペットボトルロケット</p> <p>⑤ 平面てこ（板や小球の重心と台はかり）</p> | <p>② ダイコンのすがたと発芽の対照実験</p> <p>④ 星や月の動きと手作りプラネタリウム</p> |
|--|--|

① 冒頭の導入文を読ませ、林に生息する生物についての知識を問う問題。さまざまなテーマから出題されているが、大部分が本校の受験生にとっては基本中の基本と言える簡単な知識を問う問題である。ただ、(4)でのナナフシの体のつくりを問う問題や、(5)のアカゲラのあしを選ぶ問題など、いかにも洛南らしい得点しにくい知識を問う問題もある。(6)のダンゴムシのあしの本数については冬期講習会テキストの問題で扱っているため、本学園の園生は容易に正解できたであろう。② 前半はダイコンの種子の発芽や可食部、春の七草についての知識を問う問題、後半はダイコンの種子の発芽に関する対照実験について問う問題。過去 20 年分の問題を解いている受験生は(2)の問題でほくそ笑んだに違いない。この「春・秋の七草（に関連する植物）を問う問題」は、もはや洛南名物と言ってもよいものであり、過去には'16年度（セリ、ナズナ）、'14年度（セリ）、'13年度（ススキ+α）、'09年度（秋の七草）など高い頻度で出題が見られる。後半の問題は対照実験としては中程度の難度だが、①で実験の結果からわかること以外を選ばないように注意が必要である（②の答えにも影響するため）。③ 注射器の中に入れた空気を上から押し、その押す力と体積の関係を示した表・グラフをもとに、中の空気の体積を変えた場合や水を入れたときの実験結果について問う計算問題。近年、難関校でまれに見られる問題であり、その基本パターンは「実はピストンの上に目に見えない大気圧が 1kg 分あって…」という流れで計算させるというものである。しかし、本校の問題は単純にグラフを見るだけで答えが出せるほど簡単なものであった（ただし、ピストン内の気体の体積を半分にした場合に、押す力と気体の体積の関係がどう変化するかを判断する材料がないため、「受験生がこれまで問題を解いてきたことで得た経験」も必要という少し乱暴な設定の問題ではある）。④ 冒頭の導入文を読ませ、手作りプラネタリウムの球体の回転方向や、光を通す穴を開ける場所などを問う問題。初見の受験生もやや多かったのではないかと考えられるが、この問題を解く上での最大のポイントは「図3の意味」を理解できたかどうかのみである。プラネタリウムの球体上の3か所の面A～Cの意味さえ理解できれば非常に簡単で、計算などは全く必要ない。最後の問題は 18 時でのアークトゥルスと三日月の方角の關係に気付く必要があり、この大問の中ではやや難度の高いものであった。⑤ 円すいの支点をのせた台はかりの上に正方形の板をのせ、板上の様々な位置に小球をのせたときの台はかりの示す値を問う問題。過去 20 年分の問題を解いている受験生は②以上に「ニヤリ」としたに違いない。本校を第一志望校として目指す受験生に最大限配慮された問題であり、'13年度⑤や'08年度⑤の流れをそのまま受け継いだものである（図2については完璧に過去問を流用）。そして'13年度、'08年度のいずれの問題と比べても、今年度の⑤の方がはるかに簡単であった。ただし、支点到 20g の重さがあることを読み落とすと 13 問全問が不正解となる。いずれにしても⑤の物理の得点が重要な要素であることは例年通りである。

■合格に向けての対策

洛南は過去の出題傾向を踏襲した問題を多数出題するため、最低でも過去問 20 年分を反復して解くことが必須です。また、いずれの年度の問題を解く場合にも、最後の物理の大問に 15 分～20 分ほど残しておくつもりで、前半の大問を徹底したスピードと正確さで処理することを意識してください。さらに、甲陽学院、洛星、東大寺学園、西大和学園の過去問を解くことで、物理と地学の単元について様々なレパートリーの問題に対応できる力を身につけると心強いです。近年、物理の易化傾向が顕著にみられますが、これが今後も継続すると考えるのはあまりにも楽観的であり危険です。洛南高等学校附属中学校は京都で最高難度の学校であることを心し、強い警戒感を持って日々の学習に臨んでください。

■今年の社会は！？

難易度「易」完全定着→高得点必須 地理…データ分析 歴史…基本的内容+世界史 公民…日本国憲法・時事問題・経済

■出題形式

4科・3科選択入試導入以降、制限時間は45分、配点は100点(判定時に50点に換算)で、今年度(’20年度)も同様である。大問数は、3年連続3問であった。小問数は、約50問弱と例年通りの出題数で推移している。出題傾向にも大きな変化は無い。用語解答における用語指定は限りなく少なく、昨年度(’19年度)は漢字指定1問、今年度は出題無しである。基本的な文章解答の出題がここ数年で1問出題されている。

	2018年度	2019年度	2020年度
制限時間	45分	45分	45分
大問数	3問	3問	3問
小問数	47問	50問	50問
配点	100点	100点	100点
合格者最高点	94点	92点	92点
受験者平均点	非公表	非公表	非公表
合格者平均点	75.9点	69.7点	77.2点

※ 3科4科の区別なしに400点満点で判定。4科の理科は判定時に50点に換算。

合格点平均点については、約7割～8割の範囲内で推移している。

■出題内容

- ① 歴史…ユネスコ無形文化遺産「和食」と「東京オリンピック」をテーマにした総合問題
- ② 地理…架空の旅行の行程案A・Bに基づく、データ(分析)を含む総合問題
- ③ 公民…「2019年参議院議員通常選挙」をテーマにした、会話文に基づく総合問題

①は洛南の受験生であれば、全問正解も可能であろう。(1)「月と星」の化石自体を知らなくても、「オオツノジカ」「ナウマンゾウ」→「野尻湖遺跡(長野県)」から正答できよう。(2)飛鳥時代の仏像「広隆寺弥勒菩薩半跏像」は、最難関志望校別特訓の授業で取り扱った。(6)奈良時代の朝廷組織(律令下の官制)「二官八省」についてはやや深い内容ではあるが、選択肢が易しく、「太政官」→「太政大臣」、「民」→「戸籍・税」と語句の意味から類推・識別できてしまう。(7)選択肢に「藤原良房」が無い段階で、「藤原基経」しか解答しようがない。洛南では以前「藤原基経」は用語解答であったので、この1問からも歴史分野からの出題の易化を分析できよう。(10)世界史からの出題は洛南の独特の特徴であるが、「ルネサンス」「宗教改革」「フランス革命」などを含め、最難関志望校別特訓の指導内容を上回るレベルの出題は皆無であった。(17)近代文学史の出題はやや新鮮だが、『坊ちゃん』=夏目漱石はあまりにも平易。(20)「平成時代」のできごとを問うもので、強引に捉えると時事問題に含められよう。

②は小問の多くが地理データ・資料を含む問題ではあるが、その内容は平易である。(4)(5)(6)(8)(9)がデータ(分析)問題で、すべてデータの比較によって正答できる内容に終始している。(2)カタカナ4字指定では無いので、「カルスト地形」の「地形」までを答えに含めるかどうかで迷った受験生もいたであろう、やや曖昧な出題(本問では、まんじゅうの名前の一としての出題であるので「カルスト」のみが正解)。尚、ここ数年の洛南の入試では、日本全国の「B級グルメ」、「郷土料理」関連の出題が見られる(今年度の(10)も該当する)。(3)世界地理の内容が出題されている。(4)新潟県の面積は、10000km²以上であるので、容易に正答できる。(5)「かに」→「日本海側」、「まぐろ」→「枕崎港(鹿児島県)」から判断できる。(6)A「光熱」最多→「東北」、B「住居」最多→「関東」から判断できる。(8)「平日年代別主要メディア1日あたり利用時間」はB「若年層」長→「インターネット」、C「全体的」短→「新聞」と容易に判断できよう。このレベルを確実に識別できる実力を身に付けていきたい。(15)「東日本大震災」の被災地地図を用いた被害状況に関する出題。「ハザードマップ」含め、自然災害関連に関する出題が全体的に増加している。

③「2019年参議院議員通常選挙」をテーマとした出題ではあるが、内容はやはり全て平易。(1)2019年度一般会計予算は約100兆円である。(2)政党について、「オリーブの木」、「れいわ新選組」まで選択肢に登場したのは意外であった。また、「特定枠」を問う時事問題が見られた。(7)日本国憲法の条文空欄補充問題は例年出題されるが、今年度もやはり出題された。(10)今年度唯一の文章解答の問題であった。「累進課税」については、過去にも洛南で出題されている。

4科・3科選択入試導入以降、(あくまでも洛南の受験者レベルから考えると)難易度としては易化が完全に定着した。ゆえに、相当な高得点が受験生には求められる。最低8割は死守すべきであり、’15年度以降は、今年度も含め満点近くも狙えるといっても決して過言ではない。出題分野の割合については、地理・歴史・公民各分野に時事的内容を含めて万遍無く出題されているので、分野の偏った学習は避けるべきである。

洛南高附属中で例年出題される世界史に関する問題は、’16年度、’17年度こそ出題されなかったが、’18年度以降再び出題されている。日本のある時代のある出来事と同時期の世界の主なできごとを記号問題で問うという形式で出題される。公民分野における経済の出題については、「エンゲルの法則」「需要供給曲線」「外国為替」「累進課税」という高度な内容が過去出題されていた。易化したここ数年高度な出題は影を潜めているが、油断せず備えておきたいところである。

■合格に向けての対策

当然通常授業での、基本的知識を確実に身につけることですが、それだけでは残念ながら十分ではありません。近年の易化傾向に対して慢心・過信は禁物です。地理分野については、県勢の学習（都道府県のデータ・キーワードをより多く習得する）、及び（東大寺学園中によく見られる）データ・統計の分析学習に慣れておいてください。歴史分野においては、「知識の丸暗記」ではなく、「内容の理解」が必要です。つまり、何らかのできごとについて、「なぜ」と感じた事柄をそのままにせず、それが理解できるようになるまで、さらに深く掘り下げる学習が必要ということです。時代の流れについては、タテ・ヨコ双方の意識を持った日々の学習を徹底してください。正誤問題の正誤判定を曖昧にせず、誤文の誤っている部分を正確に理解してください。時事問題含む公民分野については、ここ数年は特に出題が増加し、今後起こる様々なできごとから直接及び間接的に出題されています。よって、日常からニュースには敏感になっておく必要があります。最難関志望校別特訓等の該当対策講座の受講も、入試においてもこれらの講座の内容に類する出題が多くなっているため、非常に重要・有効です。